

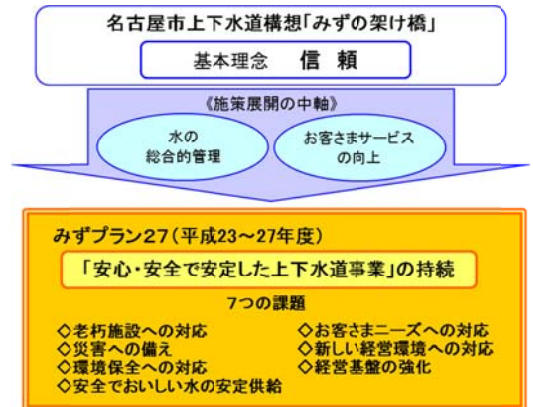
みずプラン27の取り組みの総括

上下水道局では、平成17年に「信頼」を基本理念として、これからの上下水道事業のあるべき姿とめざす方向を明らかにする名古屋市上下水道構想「みずの架け橋」を公表しました。

この「みずの架け橋」を実現するため、第1期計画である「みずプラン22」に引き続き、第2期計画「みずプラン27」（計画期間：平成23～27年度）のもと、さまざまな事業に取り組んできました。

老朽施設への対応などの7つの課題に対して、「安心・安全で安定した上下水道事業」の持続をめざし、計画の着実な遂行に努めてきた結果、計画目標を概ね達成することができました。

平成28年度からは「みずプラン27」の取り組み状況を踏まえながら、新たな中期経営計画「みずプラン32」のもと、効率的かつ計画的に事業を推進していきます。



～老朽施設への対応～

水道施設においては、創設期から稼働していた鍋屋上野浄水場の緩速ろ過池や東山配水場2号配水池の更新を行うとともに、配水管については老朽化したものや耐震性の低いものから順次更新を進めました。下水道施設においては、老朽化が進んだ露橋水処理センターの改築や宝神汚泥処理場に替わる施設として平成20年度に建設を始めた空見スラッジリサイクルセンター第1期施設の整備を進めるとともに、下水管の調査や整備、陥没リスク低減策としての空洞調査を行いました。

「みずプラン32」では、配水管の更新や下水管の改築の延長を増加させるなど、老朽施設への対応をより強化し、引き続き計画的な改築・更新に努めます。



更新した鍋屋上野浄水場の緩速ろ過池

主な取り組み	平成23～27年度の計画目標	平成23～27年度の実績
基幹施設の改築・更新【水道】	鍋屋上野浄水場緩速ろ過池整備 全12池	整備完了(26年度)
	東山配水場2号配水池整備	整備完了(26年度)
配水管の更新【水道】	配水管の整備 460km	470.6km
基幹施設の改築・更新【下水】	露橋水処理センター改築工事の推進	工事の推進
	空見スラッジリサイクルセンター第1期施設供用開始	供用開始(25年度)
	空見スラッジリサイクルセンター第2期施設の検討及び計画の策定	計画策定(27年度) 下水汚泥固形燃料化事業の実施決定
下水管の改築・更新【下水】	調査延長(本管) 2,070km	2,133.1km
	下水管の整備 187km (計画変更前:165km)	164.6km ※1
空洞調査【下水】	調査延長 715km (計画変更前:470km)	825.9km
施設の改築・更新【工水】	「災害への備え(施設の耐震化【工水】)」参照	

※1 東日本大震災の被害状況を踏まえ、避難所から水処理センターを結ぶなど重要な下水管の耐震化に優先的に取り組んだことや、整備対象の多くが市中心部にあり、他企業の埋設物が輻輳していることや交通対策などの協議に想定以上の時間を要したことから、整備延長が計画目標に達しませんでした。今後は関係機関との協議を円滑に進め、着実な事業執行に努めていきます。

～災害への備え～

上下水道施設の地震対策として、救急病院や透析医療機関、入所型社会福祉施設などの重要給水施設へ至る配水管（重要給水管路）の耐震化や、避難所から水処理センターを結ぶ下水管の耐震化などを進めました。さらに、重要給水管路の耐震化が平成 25 年度に完了したため、平成 26 年度からは市立中学校へ至る配水管の耐震化とそれに合わせて地下式給水栓の整備を優先して進めました。また、地域と協働した地下式給水栓や下水道直結式仮設トイレの組立訓練を実施するとともに、災害用備蓄飲料水「名水」の販売を継続して行いました。

浸水対策として、東海豪雨や平成 20 年 8 月末豪雨などで著しい浸水被害が集中した地域などを対象に、雨水調整池の整備や排水ポンプの能力増強などを行う緊急雨水整備事業を進めました。また、市政出前トークや各区行事などで「洪水・内水ハザードマップ」の周知・活用方法の説明や雨水流出抑制の普及啓発を継続して実施しました。

「みずプラン32」では、南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえ、避難所へ至る配水管や下水管の耐震化など施設の地震対策をさらに推進するとともに、地下式給水栓アドバイザー制度の導入など地域のみなさまとの連携を深め、総合的な災害対応力の強化を図ります。また、名古屋中央雨水調整池や広川ポンプ所の整備など、引き続き緊急雨水整備事業を着実に進めます。



緊急雨水整備事業として建設中の
中村中部雨水調整池の内部

主な取り組み	平成 23～27 年度の計画目標	平成 23～27 年度の実績
基幹施設の耐震化【水道】	大規模地震発生時における浄水処理可能量 ÷全浄水処理能力＝86.7%	86.7%
配水管の耐震化【水道】	重要給水管路の整備 21km（25 年度未完了）	21km(25 年度完了)
	市立中学校へ至る配水管の整備 11km （計画変更：26 年度追加）	10.6km
基幹施設の耐震化【下水】	「老朽施設への対応（基幹施設の改築・更新【下水】）」参照	
下水管の耐震化【下水】	避難所から水処理センターを結ぶ 下水管などの整備 47km（計画変更前：25km）	52.6km
施設の耐震化【工水】	配水管の整備 2.5km	2.5km
事業継続計画（BCP）の 定着【共通】	訓練等を通じた計画の定着	訓練や研修等を実施 南海トラフ巨大地震の被害想定を 踏まえた計画の改定
「自助」・「共助」の支援（地 震）【共通】	訓練の継続実施 「名水」（水缶）販売の継続実施	地域と協働した地下式給水栓・下 水道直結式仮設トイレの組立訓練 や「名水」の販売を継続実施
緊急雨水整備事業【下水】	雨水調整池の整備 完了 19 か所 整備中 3 か所 （計画変更前：完了 18 か所 整備中 3 か所）	完了 15 か所 整備中 6 か所 未着手 1 か所 ※2
	ポンプ所の新設 整備中 1 か所 （計画変更前：完了 1 か所 整備中 1 か所）	整備中 1 か所
「自助」・「共助」の支援（浸 水）【下水】	洪水・内水ハザードマップの公表・配布や市政出前 トーク、各区行事などでの周知、雨に強い建物づくり のための建物関係者への周知の継続実施 雨水流出抑制対策の本市施設での実施及び民間 施設に対する普及促進や浸透適地マップの公表・ 周知、法に基づき指定された新川流域での河川部 局と連携した指導の継続実施	市政出前トークなどでの「洪水・内 水ハザードマップ」の周知・活用方 法の説明などを継続実施 各種イベントなどでの雨水流出抑 制等の普及啓発を継続実施

※2 雨水調整池の整備は大規模な工事であり、地下埋設物の調査や移設協議、交通対策などの検討に時間を要したため、一部の雨水調整池で完了及び着工に遅れが生じました。今後は関係機関との協議を円滑に進め、早期完了に努めていきます。

～環境保全への対応～

下水道の放流先である伊勢湾や市内河川の水質改善のため、水処理センターの改築に合わせた高度処理の導入を進めるとともに、雨水滞水池の建設や簡易処理高度化施設の設置など合流式下水道の改善を進めました。また、下水道未整備地域の解消のため、庄内川西部・志段味・桶狭間地区等の下水道の整備を進めました。

温室効果ガス排出削減中長期計画に基づき、水運用の変更による自然流下範囲の拡大や超微細気泡散気装置の整備など温室効果ガスの排出削減に取り組みました。

「みずプラン32」では、引き続き高度処理の導入や合流式下水道の改善、下水道未整備地域における下水道整備を進めるとともに、下水道が持つ本来の機能を維持するため、排水設備の適正管理に向けた取り組みを実施します。また、水運用の効率化や省エネ機器の導入など温室効果ガスのさらなる排出削減に取り組むとともに、空見スラッジリサイクルセンター第2期施設で予定している下水汚泥の固形燃料化事業など再生可能エネルギーの有効活用に向けた新たな取り組みを進めます。

主な取り組み	平成 23～27 年度の計画目標	平成 23～27 年度の実績
高度処理の導入【下水】	露橋水処理センター改築工事の推進	工事の推進
	守山水処理センターにおける MBR 実証実験の継続 高度処理導入の基本計画の策定	実証実験を実施(～25 年度) 高度処理導入の基本計画策定 (25 年度)
合流式下水道の改善【下水】	雨水滞水池、簡易処理高度化施設の整備 10 か所 (計画変更前:14 か所)	整備 10 か所 (完了 4 か所 整備中 6 か所)
下水道の未整備地域の解消【下水】	庄内川西部・志段味・桶狭間地区等の整備	処理面積 429ha 増加
温室効果ガス排出削減中長期計画の運用【共通】	温室効果ガス排出量削減率 15% (平成 2 年度比平成 27 年度末)	18.0%
環境にやさしい水道【水道】	犬山系導水路A管の整備延長進捗率 32%	40%
	水運用の変更に伴うポンプ整備 5 台 (計画変更前:7 台)	5 台
	春日井浄水場から瑞穂配水場への自然流下による運用の開始	平成 28 年度運用開始予定
環境にやさしい下水道【下水】	柴田汚泥処理場及び空見スラッジリサイクルセンターでの高温焼却炉の整備及び稼働	整備完了 (柴田:23 年度・空見:25 年度)
	水処理センターでの超微細気泡散気装置の整備 3 か所 (計画変更前:4 か所)	整備 3 か所
環境に配慮したエコパイプ ロール工法の導入【水道】	工法の実用化に向けた検証、導入	試験施工を実施し、 適用条件などの検証を完了



高度処理施設の導入を予定している
露橋水処理センターの改築工事



犬山取水場で取水した原水を自然流下によって導水する
犬山系導水路 A 管の工事

～安全でおいしい水の安定供給～

木曾三川流域の良質な水環境を守るため木曾川さんありがとうや木曾三川流域自治体シンポジウムなど木曾三川流域連携事業を実施しました。また、送・配水幹線の内面清掃や水安全計画に基づく水質管理の強化など安全でおいしい水をお客さまにお届けするための取り組みを進めるとともに、「金鯪水（きんこすい）」を活用し、なごやの水道水のおいしさを体験していただく取り組みを進めました。

「みずプラン32」では、木曾三川流域連携事業を推進するとともに、水道水の品質管理にかかる水源からじゃ口までの総合的な取り組みを進めます。また、多くのお客さまに安全性やおいしさを知っていただき、なごやの水道水のさらなる魅力向上への取り組みを進めます。

主な取り組み	平成 23～27 年度の計画目標	平成 23～27 年度の実績
流域連携【共通】	上下流交流事業の継続実施 流域自治体との連携の方策の検討・実施	木曾川さんありがとうや木曾三川流域自治体シンポジウム、商談会などを実施
塩素注入量の適正化【水道】	配水管内の水道水の残留塩素濃度が 0.2～0.5mg/ℓの範囲となる地点の割合 94.5%	最高値 94.6%(25 年度) 最低値 91.1%(26 年度)
水温の管理【水道】	水温上昇抑制に関する研究の実施 浄水場から配水管末端までの流達時間の短縮	水温上昇抑制に関する研究とそれに基づく対策を実施
配水施設の適正管理【水道】	配水池清掃及び補修 12 池	7 池 ※3
	送・配水幹線の計画的な内面清掃 26km	31km
	配水管内クリーニング工事 150km	146km
水質管理の強化【水道】	水安全計画の策定と着実な実行及び改善 高感度濁度計の設置による濁度管理の徹底	水安全計画の策定(23 年度) 高感度濁度計の設置(25 年度)
直結給水の普及促進【水道】	普及促進のPRの継続実施	小学校のじゃ口ハンドルの取替 などPRを継続実施
貯水槽水道の適正管理に向けた点検・指導【水道】	「お客さまニーズへの対応(貯水槽水道の適正管理に向けた点検・指導【水道】)」参照	
なごやの水道水を飲む機会の拡充【水道】	お客さまになごやの水道水のおいしさを体験していただく取り組みなどの検討・実施	金鯪水による水道水の提供などを実施
お客さまとの連携【水道】	名水フレンドシップ事業の実施	名水パートナーとの連携によるオリジナルカラフェを用いた PR やスタンプラリーなどを実施

※3 清掃に着手した配水池の中で大規模な補修工事が必要となるものがあり、その補修工事が配水池全体の運用に影響するため、当初計画の清掃時期に変更が生じ、実施数が計画目標に達しませんでした。今後はこれらの状況を踏まえ、計画的な実施に努めていきます。



木曾三川流域連携事業の
マスコットキャラクター「かわたん」

〔 全国からご応募いただいた 949 作品の中から、
木曾三川流域自治体で審査・決定(24 年度) 〕



イベントなどでなごやの水道水のおいしさを
体験いただくために活用している金鯪水

～お客さまニーズへの対応～

下水道供用開始 100 周年、水道給水開始 100 周年を迎えたことを機会に、水の歴史資料館の整備や鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所の保存、百年史の編集などの上下水道 100 周年事業を実施し、お客さまからの信頼を一層深める契機としました。また、上下水道訪問授業や貯水槽水道の適正管理に向けた点検・指導などお客さまのもとに出かけるサービスの充実を図りました。

「みずプラン32」では、お客さまにとって親しみやすくわかりやすい情報発信など広報の強化を図るとともに、積極的な広聴活動により幅広くお客さまニーズを把握し、お客さまの声を事業運営に活かすなど、お客さまとのコミュニケーションをさらに充実させ、信頼関係の構築を一層進めます。



平成 24 年 9 月に名古屋市指定有形文化財に指定された鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所

〔 水道給水開始 100 周年記念事業として
復原工事と耐震補強工事を実施(26 年度) 〕

主な取り組み	平成 23～27 年度の計画目標	平成 23～27 年度の実績
100 年を機会とした事業の展開【共通】	歴史的施設などの保存・整備	鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所や下水道の歴史メモリアルゾーン、水の歴史資料館などを整備
	100 年史の編集・発行	名古屋市下水道事業百年史発行(24 年度) 名古屋市水道百年史発行(26 年度)
地域密着型の広報・広聴活動の充実【共通】	工事現場見学会や雨水ポンプ所の公開などの継続実施	工事現場見学会や雨水ポンプ所、水処理センターの公開を継続実施
出前相談の開催【共通】	大型商業施設などに職員が出向いて相談窓口を開設する出前相談の継続実施	大型商業施設で災害時に役立つ情報の提供などを実施
上下水道訪問授業などの実施【共通】	訪問授業 毎年度 80 校	毎年度 80 校以上で実施
	水の学習会 毎年度 8 校	6 校実施(23 年度) 8 校実施(24 年度～27 年度)
貯水槽水道の適正管理に向けた点検・指導【水道】	小規模貯水槽水道の点検・指導実施率 100%	点検・指導 1 巡目 100% 点検・指導 2 巡目開始(27 年度～)
ビルピット臭気調査【下水】	ビルピット調査率 100%	100%

～新しい経営環境への対応～

近隣事業体が抱える課題を共有し、広域的な連携・協働につながる意見交換を行う広域連携連絡会議を開催するとともに、各市町のニーズに応じた技術協力などの協定の締結や名古屋上下水道総合サービス株式会社を活用した個別業務の受託を行いました。また、国際貢献の取り組みとして JICA を通じた研修員の受け入れや職員の派遣などを行いました。

「みずプラン32」では、圏域の中核的な上下水道事業体として、広域的な視点から近隣上下水道事業体との連携を強化するとともに、JICA の草の根技術協力事業など国際協力を推進します。

主な取り組み	平成 23～27 年度の計画目標	平成 23～27 年度の実績
広域化【共通】	国への要望の継続実施 近隣市町との意見交換の継続実施 個別業務の受託の検討・実施	広域連携連絡会議の開催や市外給水区域の下水道使用料徴収事務の受託、技術協力協定の締結などを実施
国際貢献(国際協力及び水ビジネス)【共通】	研修員の受け入れ・職員の派遣、国への要望、民間企業・関連団体との連携などの継続実施	研修生の受け入れや職員の派遣などを継続実施
名古屋上下水道総合サービス株式会社の活用【共通】	新たな課題への取り組みにおける活用方法の検討	近隣市町などからの個別業務受託を拡大

～経営基盤の強化～

業務執行体制の効率化を図るため、事務所及び業務の集約化による営業所体制や管路管理体制の見直しを進めるとともに、浄水場からの遠方管理化による取水場運転管理体制の見直しを行いました。また、企業債残高の圧縮による支払利息の節減に努めました。

技術・技能を確実に継承し、また発展できるよう技術・技能の共有環境の整備やOJT活動の充実など人材育成を推進しました。

「みずプラン32」では、組織や業務執行体制の見直し、官民連携の推進などさらなる効率化を進めるとともに、次世代を担う人材の確保やこれまで培ってきた知識・技術の継承、現場対応力の強化など総合的な人材育成を推進します。

主な取り組み	平成 23～27 年度の計画目標	平成 23～27 年度の実績
営業所体制の見直し【共通】	業務の集約化の検討・実施 段階的な見直しの実施	16営業所から9営業所・7サービスステーションに集約化
管路管理体制の見直し【共通】	事務所の集約化の実施 類似業務の協働体制の実施	東部管路センター、西部管路センター、南部管路センターの集約化
取水場運転管理体制の見直し【水道】	犬山取水場、朝日取水場の水質監視設備等の整備と浄水場からの遠方管理化の実施	完了 (朝日:24年度・犬山:25年度)
水処理センター・ポンプ所の一体管理体制の推進【下水】	親局水処理センターからポンプ所を管理する一体管理体制への移行 親局水処理センター 9か所 (23年度完了)	完了(23年度)
維持管理経費の抑制【共通】	省エネ型機器の導入など省エネルギーの取り組みの継続実施	超微細気泡散気装置などの省エネ型機器の導入
	財務会計システムの刷新の実施	運用開始(25年度)
支払利息の抑制【共通】	企業債残高の圧縮による支払利息の節減の継続実施	企業債残高の圧縮等による支払利息の節減額 水道 5.5 億円、下水 41.4 億円 (22年度比の 27 年度値)
建設コストの縮減【共通】	浅層埋設や改良土使用など建設コスト縮減の取り組みの継続実施	建設コスト縮減の取り組みを継続実施
技術・技能の共有環境の整備【共通】	ナレッジマネジメントの資料収集・整理・編集・運用開始	運用開始(26年度)
OJTの継続・充実による実務能力の向上【共通】	OJT活動の充実策の実施	OJT支援研修などを実施
国際貢献を通じた人材育成の推進【共通】	公募による職員派遣の本格実施	公募による職員派遣を毎年度実施
実務研究論文集「鯨水(こすい)」や「もの作り研究会」の活用【共通】	研究論文集「鯨水」の継続実施 「もの作り研究会」の継続・拡充	「鯨水」の活用による研究成果の情報共有や現場からの提案による工具の改善などを継続実施